

理事、将来計画委員会委員長



分子と疾患という2つの軸を掲げた当学会の先輩方は、将来を計画し、それを実行したと言える。人材育成に本気で取り組むことを計画した2000年代当時の将来計画委員会は、まさに将来が見えていた。2019年からの2年間、将来計画委員長を拝命したが、コロナの出現による社会構造の変化についていくのが精一杯で、将来を見通す余裕が全くなかった。2021年からの2年間で取り組むことは何か。若手育成セミナー、若手道場に続く第三の矢として、準PIを元気にする仕組み・準PIをencourageする仕組みを作りたい。

「研究を楽しむ」とは故池中一裕先生の言葉であるが、これが将来を計画するヒントになると思う。この言葉には裏があって、「楽しくない研究はするな」がその裏になる。では、この学会は楽しいのか。おじさん(私はこちら)と若手がテニスをしたり、温泉に入ったり、おいしいものを食べたり呑んだりすることは学会に付随する楽しいことの一側面だ。ではこの学会が大事にしている「議論」は楽しいか。議論をすることは、当然、人と会うことを含む。命題のどっちが正しいか、というようなディベートは個人的には不毛と考えている。発表者を更に成長させるためにどんな質問をすればよいか、どんな気づきを与えれば良いか。そんな思慮のもとに行われる議論は聞いている方も楽しい。

学会を楽しむ。まずはシニアである私達理事や研究者に学会を楽しんでもらいたい。知って楽しむ、見て楽しむ、話して楽しむ、出会って楽しむ、舌鼓をうって楽しむ、成長を見て楽しむ、体を動かして楽しむ。これらはシニアの楽しみ方の基本。そしてシニアは若手と共に楽しむ。共に楽しんだ若手は、楽しみ方を一つ覚える。この楽しむことの継承が、人材育成であり、準PIを元気にする仕組みではないだろうか。

コロナで出張が激減したせいで、研究室で学生と一緒にいる時間が増えた。学生は部活動ができなくなったので毎日研究をする。おかげで毎日、新しいことを知り、新しい結果に触れる。学問は楽しい。学会員の皆さんも学問を楽しみ、その楽しさを学会へ届けて下さい。2021年は奈良。2022年は沖縄です。楽しみましょう。

慶應義塾大学 田中謙二